

環境学研究科 環境システム専攻 [博士後期課程]

ディプロマ・ポリシー(DP)	カリキュラム・ポリシー(CP)
<p>◆環境システム専攻[博士後期課程]</p> <p>所定の22単位以上を修得し、以下の要件が認められ、「特殊研究（研究指導）」の審査に合格した者に博士（環境学）の学位を授与する。</p> <ol style="list-style-type: none">1. 高い倫理観をもった高度な研究手法が身についている。2. 持続可能な社会構築に係る概念のもと、修士課程等において修得した知識や問題分析手法、改善手法の提案能力等や先行研究を踏まえ、より先端的・高度化したオリジナルな研究を行える。3. 環境学・環境問題に関する幅広く高度な専門知識から、持続可能な社会の実現に向けた課題解決のための専門的かつ具体的な手法として提案ができる。	<p>環境学研究科では、環境に関する専門的職業人を養成するため、環境分野の社会動向を注視し、教育内容を時代に即して、持続可能な企業社会・地域社会の実現に対応できるカリキュラムを編成する。</p> <p>◆環境システム専攻 [博士後期課程]</p> <p>「共通科目」「環境マネジメント科目群」「エコプロダクツ科目群」「研究指導」の4つの科目群からなる体系的な教育課程を編成する。「共通科目」では、複雑に絡み合う環境問題や社会課題の研究を行う前提として欠かせない幅広い最新の環境問題に係る課題を概観する「環境学基盤研究」を必修として1年前期に配置する。それを踏まえ理論と実践を有機的に繋ぐため、学生各自の専門分野に沿っていずれかを選択できる科目群として、環境マネジメント科目群では「環境マネジメント研究」「先端環境マネジメント演習」を、エコプロダクツ科目群では「エコプロダクツ研究」「先端エコプロダクツ演習」を1年後期に配置する。2年次には、より発展的・専門的に研究を深めるための「環境学個別研究」を配置する。また、これらの研究の集大成としての博士論文の作成に向け「特殊研究（研究指導）1～3」を1～3年次に配置し、継続的な論文指導を行う。</p>